

**小児科に通院中（または 過去に通院・入院されたことのある）患者さん
またはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）**

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

【研究課題】 当院での小児炎症性腸疾患症例の後方視的検討

【研究機関名】 NTT 東日本札幌病院

【研究責任者名・所属】 近藤 謙次 （小児科 部長）

【研究の目的】

小児炎症性腸疾患（inflammatory bowel disease: IBD）は、消化管に慢性の炎症が生じ、潰瘍や穿孔、狭窄などをきたす慢性の難治性疾患であり、主として潰瘍性大腸炎（ulcerative colitis: UC）とクローン病（Crohn's disease: CD）に分類されます。いずれも腹痛、下痢、血便、発熱、食欲低下などの消化器症状を呈するほか、成長障害、体重増加不良、貧血などを伴うことがあります。成人のIBDと比較して、成長・発達への影響が大きいことが小児IBDの特徴です。また、関節症状、皮膚症状、眼症状などの腸管外合併症を認める場合もあります。小児IBDでは、適切な診断と治療を早期に開始することが、消化管病変の進行を抑制するだけでなく、正常な成長・発達を維持するうえでも重要で、日常診療において認められる初発症状、診断に至る契機、診断までの経過、血液検査や内視鏡検査・病理組織検査の特徴などを把握することは、早期診断や適切な診療につながる可能性があります。そこで当院では、これまで当院で小児IBDと診断された患者様について、診療録に記録された患者様の背景、臨床症状、検査所見、診断までの経過、病型、治療内容等の診療情報を調査・検討し、当院における小児IBDの臨床的特徴を明らかにすることを目的として本研究を行います。

【研究の対象】

○対象となる患者様

2007年1月1日から2026年12月31日までの期間にNTT東日本札幌病院で炎症性腸疾患と診断された16歳未満の小児の患者様。

○利用するカルテ情報

年齢、性別、既往歴などの患者様特性、臨床症状、身体所見、症状出現から診断までの期間、病型、血液検査・内視鏡検査などの検査所見、病理組織学的所見、治療内容等。

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さん個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前・ご住所などを特定できる情報は削除して管理致します。また、研究成果は学会や学術雑誌に発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

NTT 東日本札幌病院小児科

連絡先:〒060-0061 札幌市中央区南 1 条西 15 丁目

担当医師：近藤 謙次

Tel： 011-623-7240

Fax：011-623-7527